

## 第2学年 国語科 学習指導案

奈良市立平城小学校 村上 雄太

### 1. 単元名

ひらけ！万葉まきもの ～言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ～

### 2. 単元目標

- 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付く（知識・技能）
- 自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける（思考・判断・表現）
- 言葉には思いを伝えられる良さがあるということに気付く（学びに向かう力・人間性等）

### 3. 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、前向きに活動に取り組もうとする児童が多い。しかし、自分の体験したことがないことや、相手意識、目的意識が不明瞭なものに対しては、消極的になってしまう。そこで、実際に本物を触らせたり、なんのためにするかを常に意識させたりしながら活動することを意識しながら日々の学習活動に取り組んでいる。

国語2年生下（光村）「秋がいっぱい」の単元では秋だと感じるものの知っているものや言葉を出し合った。「もみじ」や「コスモス」など秋を感じるものは、10年も100年も昔からあるものであるということを伝えた。すると、子ども達は昔からある日本の秋のものにより興味をもった様子であった。振り返りには、「秋について学べておもしろかった」や「歴史を学べておもしろかった」などがあった。自分たちの感じた秋を昔からあるものとして意識させることで、児童は秋に対して一層興味をもつことができた。

また、生活科では自分で作ったおもちゃを、おうちの人や一年生に向けて遊び方を説明し、おもちゃ大会を行った。おもちゃの説明の仕方では、おうちの人と1年生とで、言葉や話すスピードを変えていた児童もあり、相手意識をもって活動に取り組んでいる児童が多かった。

これらのことから、本単元では、万葉集を書いた歴史に生きる人物から思いを感じ取る活動、相手意識を大切に詩を作る活動を行っていく。万葉集という千年前の人を書いた歌を、人と人との出会いと捉え、自分の体験として学び、相手意識をもち伝える意味に気付く学習ができればと考える。

#### (2) 教材観

本学習は、約千年前に作られた日本最古の歌集である万葉集を、思いを伝える意味を考えるために教材化したものである。

万葉集には、約4500首もの歌がある。その中には、小学2年生にもなじみのあるものがある。例えば、昔話の歌やすごろくを取り扱った歌、九九を用いた言葉遊びのある歌などである。日本最古である万葉集の中に、今も伝わってきているものが多くあることを知ることは、伝える意味の大切に気付くきっかけになるだろう。

また、万葉集には、さまざまな読み手が出て、一人一人が何かを伝えようという目的や思いがあったから歌を書き残したということ大切に考えていきたい。伝えようとする目的や意味を考えると、小学2年生にとっては簡単に読むことのできない文字も、思いのこもった人の気持ちであることに気付く。

この気持ちに気付くことで、万葉集を作った時代の人物との対話が生まれる。この対話を万葉に生きた人々との出会いとして感じさせることができるのも、万葉集を教材化するよさである。

他にも、本学習では万葉集の歌集という点にも着目させたい。5・7調の日本語独特のリズムのよさを意識させたい。本単元では、わらべ歌も扱う。児童の多くが好きな「音楽科」で、わらべ歌の楽しさと歴史の深さに気付けることも万葉集を教材化するよさである。

さらに、万葉集には平城の地にゆかりのあるものが多数存在する。その中で、「奈良山の嶺の黄葉取れば散る時雨の雨し間なく降るらし」(1585)を、紹介したい。それは、児童が今住んでいる地域ゆかりの歌があると知ること、万葉集をより身近なものに感じるきっかけになるからである。また、歌の内容も「奈良山の嶺の黄葉の木を一枝手折ったところハラハラと黄葉が散った。しぐれ雨が絶え間なく降り続けているからだろうか」と、一瞬の情景と心情をとらえたもので、2年生の児童にもイメージしやすい。ここから、児童は昔の人もしていたことをしてみたいという思いや、児童自身の身近な出来事も、残す価値のある宝物になり、どうすれば自分の思いを言葉にできるだろうかと考えるきっかけが生まれる。この思いや気づきが生まれるのも、万葉集を教材化するよさであると考えられる。

### (3)指導観

本単元は、小学校2年生にとって内容が難しい万葉集を取り扱うため、万葉集は難しいや、歴史はわからないなどという先入観を持たせないような取り組みを意識していきたい。そのため、ワクワク感を演出するために巻物を活用した学習を展開する。具体的には、1時間ごとに巻物を開き、学習の導入に活用する。国語・算数・生活・音楽という2年生が現在学習している主要な教科一つ一つに巻物を用意する。児童は、一時間一時間巻物を開きながら、万葉集やその時代に由来する学習を展開することになる。それぞれの学習のおわりには、万葉を学んで振り返りを書く。この振り返りをもとに、伝えることの意味を考えていく。

また、本時のもう一つの特徴として、万葉集の日として、1日で万葉集を学ぶためのすべての授業を行うということである。1日で行うことで2年生の児童に万葉集というものを強く印象付けることができる。と考える。

さらに、本単元で児童は初めて詩を書くという活動に取り組む。万葉集で学んだことから、詩を書く目的や意味を振り返りながら活動に取り組ませたい。平城の地を詠んだ歌を紹介する中で、自分も昔の人のようにやってみようという思いを導き出しながら、指導していければと考える。

これらのように学んだ万葉集から、思いを伝えることの意味を学び、言葉伝える意味に気付いてほしい。

## 4.ESDとの関連

### ・題材で働かせるESDの視点

【多様性】万葉集は様々な人の思いや出来事やわらべ歌、昔話などの歌があることを知り、書くだけではなく思いの伝え方があることに気付くことができる。

【公平性】万葉集は、1000年前は昔の話ではなく、今と変わらない人の思いが受け継がれていることに気付くことができる。

・ESD で育てたい資質・能力

【コミュニケーション能力】

友達との交流だけでなく、昔の資料を通して昔の人々の思いを知ることでも、交流できることに気付く。

・ESD で育てたい価値観

【人権・文化】

日本最古の歌集である万葉集に出会い、日本の文化を大切にしようとする事ができる。

・関連すると思われる SDGs

【住み続けられるまちづくりを】

世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

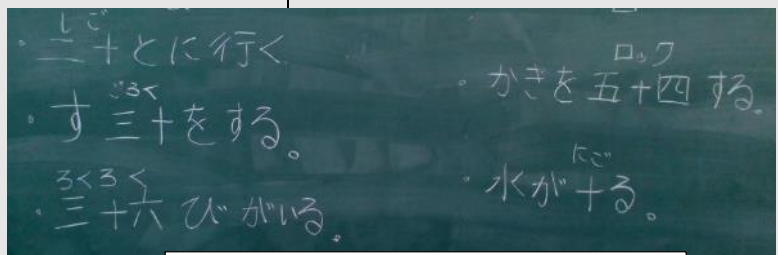
## 5.単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	①自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	①言葉には思いを伝えられる良さがあるということに気付く気付いている。

## 6.単元計画 全6時間

本単元は、国語・算数・生活・音楽それぞれの学習を生かしながら、単元を構成する。そのため、左端は教科名を記載している。

	教科	主な学習活動	留意点【評価】
万葉集と出会う、体験する		○長く親しまれている言葉遊びを通して、九九で文章をつくろう。	
		<p>・万葉集の九九を使った一文を紹介する。</p> <p>・九九を振り返り、使えそうな言葉を探す。</p> <p>・九九を使った言葉遊びの文章を考える。</p> <p>・発表する。</p>	<p>・1000年も前から、言葉遊びで遊んでいたという昔も今も変わらないことを伝える。</p>



児童の考えた九九を使った言葉遊び

国語

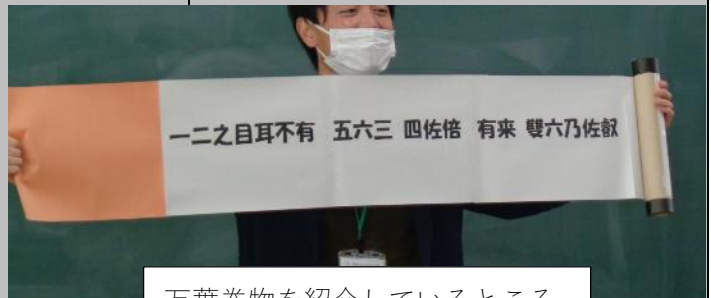
- 浦島太郎のお話をつくろう。
- ・昔の原文を見せ、話を予想させる。
- ・文部省歌「浦島」をきく。
- ・風土記・万葉集のお話を読み似ているところを探す。
- ・キーワードを残しながら、お話を作る。

○万葉集が1000年以上前から受け継がれてきている思いについて思いをめぐらす。【アー1】

## 万葉集の時代の遊びを体験し、人々の思いを考える

生活

○昔あそびをしよう



万葉巻物を紹介しているところ

- ・万葉集のサイコロを使った一文を紹介する。
- ・昔のすごろく（バックギャモン）を紹介する。
- ・双六をする。

○1000年も前から、今も楽しめる双六で遊んでいたという昔も今も変わらないことを伝える。

音楽

○わらべ歌で遊ぼう

- ・万葉集は歌だということを知る。
- ・「はないちもんめ」のやり方を知り、体験する。
- ・「奈良の大仏」のやり方を知り、体験する。


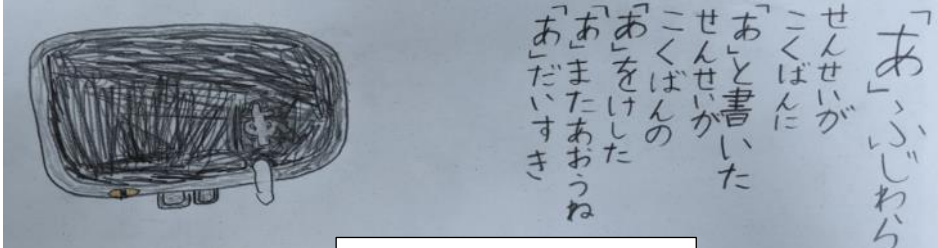
○1000年も前から、今も楽しめるわらべ歌で遊んでいたという昔も今も変わらないことを伝える。



はないちもんめをしているところ



奈良の大仏さんをしているところ

	国語	○万葉集から学んだことを生かそう	
万葉集から学んだことをまとめ、思いの伝える意味を考え、自分の思いを詩で表現しよう			
まとめて、思いを表現する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平城の地を読んだ句を詠む。</li> <li>・巻物の最後に、自分の思いも書いてみよう伝える。</li> <li>・自分の好きなことを伝える万葉まきものをつくる。</li> <li>・書いた詩を読み合う</li> <li>・いままでの学習の振り返りを、つなげ巻物のにする。</li> <li>・友達と巻物を交流する。</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">児童のまきもの</p> <p>○昔の人と同じく思いを残したことを伝える。【アー！、イー！、ウー！】</p>  <p style="text-align: center;">児童のまきものの中の詩</p>

### 成果と課題

2年生でも万葉集に抵抗なく取り組めるように、内容に迫るのではなく、書いた人の思いに迫ることを大切にしました。万葉集の時代に生きた人々と同じ体験をするということがキーワードになった。

九九の言葉遊び（戯書）では、「1000年前の言葉遊びはいまやっても楽しんだなと思いました。」や「1000年前にこんなおもしろいことを考えていたと思うとすごいとおもいます。ほかにも、もっと知りたくなってきました。こういうベンキョウをしたいです。」などという感想があった。他にも、授業では昔話、双六、わらべ歌遊びを通して、体験を重ねることで楽しさを「実感」させることができた。この「実感」が昔の人も今を生きる人も変わらないという「共感」になった。そして、本単元の副題でもある「言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ」という目的をもった詩作活動への入り口にすることができた。

詩作をする前に、改めて万葉集を書いた人の思いを確認した。「万葉集の人は、思いがあるからみんなも思いがつながっています。ほんとうに思いはつながるんですね。」「今日はとっても楽しかったです。こんな遊んでばかりの授業もあるんだと思いました。昔の人の思いがあるからいろいろできたということが分かりました。またしたいです。」「千年前の万葉集を書いた人みたいに、自分も巻物を残したいです。」など、前向きな振り返りが多く様々な体験が生きていると感じることができた。

本単元では、書いた人の思いに寄り添い体験活動を繰り返した。そのことにより、児童は万葉集の時代に生きた人々の思いに共感しながら詩作することができた。しかし、万葉集が、日本最古の歌集だということや学校名にもある「平城」という地域が深くかかわっている歌があるということに迫ることは十分にはできなかった。特に地域が深く関わっているという気付きは、ESDの目的である持続可能な社会を実現するためには大切になる気付きである。自分の生まれた地域、自分が学んでいる地域を大切だという思いを生かすことは、持続可能な社会への第一歩になると考える。今後とも、この実践の成果と課題を生かしながら、未来の担い手を育てられるような実践を積み重ねていきたい。